

読解力を中心とした国語科に関する能力の向上を目指した教育実践の工夫

えびの市立飯野小学校

教諭 高須 翔太

○ はじめに

本校はNIE教育実践の指定を受けて2年目となる。昨年の研究を引き継ぎ、「読解力」の向上、さらに今年度は「書く力」や「話す力」を伸ばしていくための言語活動を充実させることをねらいとした。NIE教育は言語活動の充実において一覧性に富んでおり、かつ色々な分野の情報を様々な文章で表現している新聞を活用することは有効な手立てであると考えた。そうした考えをもとに、よりよい活用法の研究に取り組んだ。

研究内容

1 新聞に親しませるための手立て (1) 児童が新聞を手に取りやすい環境整備	2 新聞を活用した言語活動や授業実践 (1) 新聞を活用した話し合い活動 (2) 新聞を活用した書く活動 (3) 授業実践
---	--

1 新聞に親しませるための手立て

(1) 児童が新聞を手に取りやすい環境整備

① 新聞をよりよく活用するために

新聞は6社から4か月分届く。その配当は担当者が決めることになっていた。昨年は全社の新聞をまとめて4か月届けてもらったが、6社もあると活用しきれなかったという反省点があったため、朝日・読売・宮日と毎日・日経・西日本のグループに分け、それぞれ4か月分(通算して8か月間)新聞を届けてもらうことにした。これにより、教師も新聞に目を通すようになったり、担当者が新聞を見て、授業で使えるような記事を当該学年の先生に提示したりすることができた。児童は新聞に対して抵抗がある。そこで、教師が新聞記事を紹介して児童が新聞に対して興味をもてるようにした。

② 新聞ストッカーの設置

日数の過ぎた新聞は、図書室に新聞ストッカーを設置し、全校児童が読めるようにした。しかし、それだけでは児童はなかなか新聞を手にとらなかつたというのが昨年の反省だったため、ある一定期間置いたら古いものから学級の新聞コーナーに移動させ、児童にとって新聞が身近にあるようにした。そうしたところ、児童は徐々に新聞を開くようになった。

2 新聞を活用した言語活動や授業実践

(1) 新聞を活用した「話し合い」活動

朝の「学級の時間」を使って、新聞を活用した話し合い活動を行った。

① 「話す」活動

活動の内容は、新聞記事をきっかけに自分たちの住むえびの市と関連させて班で話し合い意見をまとめ、その意見を全体の場で発表し合い深めるというものだ。実際に行った話し合い活動を紹介する。



9月30日の宮日こども新聞。宮崎市をキャンプ地とした福岡ソフトバンクホークスと日南市をキャンプ地とした広島東洋カープがリーグ優勝した。どちらの球団も宮崎県内でキャンプを張り、それを原動力に優勝という結果につなげていったという記事。

【宮日こども新聞】

調べてみると、宮崎県内の至るところで野球をはじめ、サッカーやラグビーなどのプロチームがキャンプに来ていた。しかし、えびの市には・・・。
「えびの市にキャンプに来てもらうためにはどうすればいいだろう。」

【朝の活動の板書】



【話し合い活動の様子】

児童はえびの市の特色を生かした誘致を考えていた。

- ・「スポーツ選手はたくさん食べるからえびのお米を使ったスタミナ食を作るといい。」
- ・「広い土地に宿泊施設と練習できる場所を近くに作ればたくさん来るよ。」

この活動を通して、自分の住むえびの市の特色に改めて気付くとともに、それと関連させたテーマに対する自分の考えを相手に分かりやすく伝えようという児童の姿が見られた。

(2) 新聞を活用した書く活動

① 新聞作り

第4学年の国語の単元で、6月に「新聞を作ろう」というものがあり、新聞の特徴や工夫について調べた。4人1グループの班で学級新聞を作った。各班に模造紙とA4用紙を配付し、児童は1人1枚、A4用紙に記事を書き模造紙にそれを貼って発表した。作成する際は、班の新聞名やレイアウト、興味を引く見出しについて話し合いながら学習を進めた。

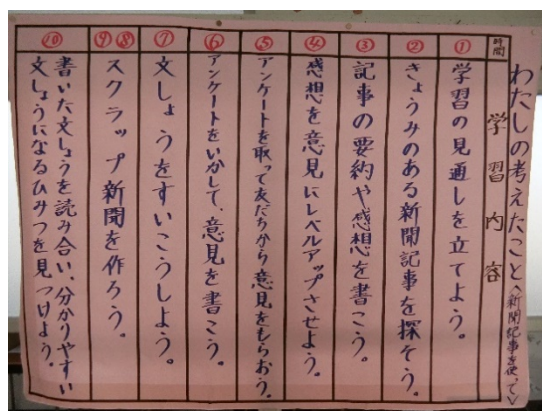
(3) 授業実践

単元を貫いて「新聞を活用した言語活動」を充実させるためにどのような手立てが取れるかということについて、研究授業による検証を行い、児童の読解力向上を目指した。

① 学習計画

第4学年「国語」の単元の中に「わたしの考えたこと」という意見文を書く学習があった。その単元で新聞活用を中心とした学習計画を立てた。

時間	学習内容
①	学習の見通しを立てよう。
②	興味のある新聞記事を探そう。
③	記事の要約や感想を書こう。
④	「感想」を「意見」にレベルアップさせよう。
⑤	アンケートを取って友だちから意見をもらおう。
⑥	アンケートをいかして、意見を書こう。
⑦	文章を推敲しよう。
⑧	スクラップ新聞を作ろう。
⑨	
⑩	書いた文章を読み合い、分かりやすい文章になるひみつを見つけよう。



【学習計画表】

② スクラップ新聞を作る

児童はこれまで書いてきた新聞記事の紹介と同じように自分の興味のある新聞を選ぶ。そして今回はその記事について要約、意見文を書く活動をした。

自分の選んだ新聞記事を貼る

読みたくなる新聞の名前を考えて書く

文章は、記事の要約、自分の意見、まとめの3段落構成で書かせた

スクラップ新聞を読んでもらった友だちから感想を書いてもらった

自分の考えに説得性を持たせるため、客観的な意見が有効であることを学習した。そこで、自分の選んだ記事に関連する質問を考え、クラスの友だちにアンケートを取らせ、その結果をここに書かせた。

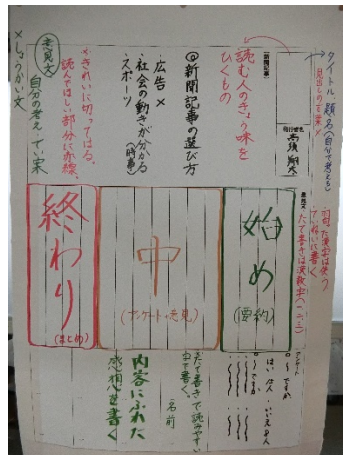
【スクラップ新聞 ワークシート】

③ 指導の工夫

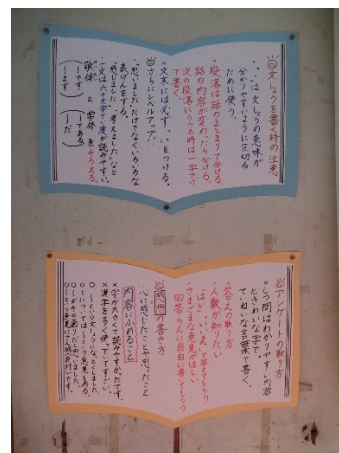
【資料1 教師の意見文】



【資料2 ワークシート例】



【資料3 書く時のポイント】



- 【資料1】・・・教師が新聞を基に意見文を書き、それを授業の中で活用した。敬体と常体がそろっていなかったり、「～と思います」という言葉がたくさん使ってあったりと悪い例もあえて入れてある。児童にはこの意見文の良い点と悪い点を指摘させた。
- 【資料2】・・・これまで学習したことをワークシートの形にあてはめながらまとめた。
- 【資料3】・・・意見文と感想文の違いや文末表現についてまとめ掲示することで、児童が文章をより書きやすいようにした。

◎ 成果と課題

成果と課題については、本学級の4年生をもとに記載している。

○ 成果

- ・ NIE教育に取り組んだことで、単元テストで見ると、読む能力が93%で6%の向上、書く能力が91%で12%の向上があり、学力が向上した。
- ・ NIEに取り組む前は「新聞を読まない」児童が3人いたが、12月に取ったアンケートでは全員が「新聞を読む」ようになったと答え、新聞に興味・関心をもつ児童が増えた。
- ・ 多様なものの見方や考え方を生かし、意見を話したり、書けたりできるようになった。
- ・ 児童の思考が深まり、進んで表現できるようになった。

● 課題

- ・ NIEに取り組む上で、教師自身が新聞によく目を通さなければいけないため、時間を大きく使ってしまう。
- ・ 児童の新聞を読む頻度について12月にアンケートを取ったところ、4月に取ったアンケートと比べて「毎日読む」児童が増加しなかった。
- ・ 学年の実態に応じて取り組める活動を提案する必要がある。